

---

[成果情報名] 大果で良食味の黄色系キウイフルーツ「甘<sup>あま</sup>うい」

[要約] 「甘うい」は果肉が黄緑色で、「ヘイワード」より果実が大きく、糖度が高く食味が優れる。「ヘイワード」より展葉期が約10日、開花期が約13日早く、収穫期は10月下旬である。

[キーワード] キウイフルーツ、甘うい、黄色系、大果、良食味

[担当部署] 果樹部・果樹栽培チーム

[連絡先] 092-922-4946

[対象作物] 果樹

[専門項目] 育種

[成果分類] 新技術

---

[背景・ねらい]

国内のキウイフルーツ品種は「ヘイワード」が主体であり、11月～3月にかけて販売される。しかし、11月～12月は外国産の黄色系キウイ等と販売時期が競合するため、商品性の高い新たな品種が求められている。

そこで、この時期に出荷できる果肉色や食味に特長をもった高品質な県オリジナル品種を育成し、県産キウイの有利販売を図る。

[成果の内容・特徴]

1. 「甘うい」は、黄色系品種「ゴールデンキング（廬山香）」の自然交雑実生の中から選抜した大果、黄色系のキウイフルーツである（図1）。
2. 展葉期は3月下旬、開花期は5月上中旬で、「ヘイワード」より展葉期が約10日、開花期が約13日早い。開花期間は8日、樹勢は中で「ヘイワード」並みである（表1）。
3. 新梢当たりの花穂着生数は「ヘイワード」よりやや多く結実良好である。果梗が短いため肥大とともに果実同士が接触するが、傷果は発生しない。果形は「ヘイワード」と同様に広楕円形であるが、果肉は黄緑色で「ヘイワード」と明らかに異なる（表1、図2、一部データ略）。
4. 収穫期は10月下旬で「ヘイワード」より早い。「ヘイワード」より果実が大きく、糖度が高く、食味良好である（表2、一部データ略）。
5. エチレン吸着剤を用いた5℃貯蔵では収穫90日後でも明らかな軟果は認められず、日持ち性は中程度である（データ略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「甘うい」は平成25年8月12日に品種登録出願公表。
2. 受粉や収穫作業が「ヘイワード」と競合しないため、既存生産者への新規導入により経営規模拡大が図られる。
3. 展葉期が「ヘイワード」より早いため、晩霜対策を講じる。



図1 果実の外観と横断面  
左：甘うい、右：ヘイワード



図2 「甘うい」の結実状況

表1 「甘うい」の生育・果実特性（平成22～23年）

品種・系統	展葉期 (月/日)	開花盛期 (月/日)	樹勢	新梢当たり 花穂着生数	果梗長 (cm)	果形	果肉色
甘うい	3/27	5/12	中	5.4	2.8	広楕円形	黄緑
ヘイワード	4/7	5/25	中	4.8	6.3	広楕円形	緑
ゴールデンキング	3/30	5/18	中	6.4	4.5	短台形	黄

注) 1. 果形、果肉色は種苗特性分類調査報告に基づく。

表2 「甘うい」の果実品質（平成21、23年）

品種・系統	収穫期 (月/日)	果重 (g)	果肉硬度 (kg)	糖度 (Brix)	クエン酸含量 (g/100mL)
甘うい	10/27	141	1.21	18.1	0.44
ヘイワード	11/11	120	1.48	16.8	0.60
ゴールデンキング	10/27	120	1.17	15.3	0.66

注) 1. 21、23年の平均値を表示（22年は晩霜被害のため欠測）。

2. 果実品質は追熟果を調査（「甘うい」、「ゴールデンキング」は6～7日、「ヘイワード」は9～10日、甘熟パックを用いて20℃で追熟）。

[その他]

研究課題名：カキ、ナシ等品種・系統適応性（キウイフルーツ）

予算区分：経常

研究期間：平成23年度（平成17～23年）

研究担当者：藤島宏之、村本晃司、矢羽田二郎、牛島孝策、松本和紀、松田和也